

岐阜県の地域風土についての意識調査分析

岐阜大学工学部 学生員 ○林 達也
 岐阜大学工学部 学生員 片桐雅之
 岐阜大学工学部 正会員 秋山孝正

1. はじめに

これまで社会基盤整備をめざした地域計画が多くの地域で行われてきた。また近年、これに加えて地域の風土性を考慮した地域計画が必要とされている。このようなことから、本研究では地域の精神的風土を背景とする地域のイメージについて分析する。具体的には岐阜県を対象地域として深層心理的な意識調査を行う。この調査結果を分析することによって各地域の意識の違いを抽出するとともに、地域の精神風土から見た各地域の特徴を考察する。さらに、分析結果を整理することによって地域のあり方について検討する。

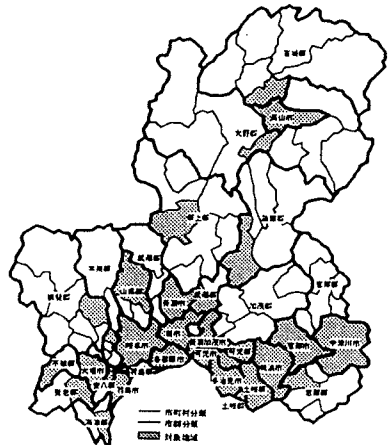


図-1 対象地域（31市群）

2. 地域イメージに関する意識調査分析

イメージとは何らかの知覚像的なものを意味し、対象が現存しなくても感じとられる（ないし経験される）一種の認知事象である¹⁾。本研究では、このイメージを言葉と同様、さまざまなコミュニケーションにおいて媒体として使われる色彩を利用する。それは色彩が人間の気分の動き、思考、判断が多少とも感情的色彩を帯びているからである²⁾。以下では、色彩や言語を用いた意識調査を実施し、この調査結果から地域イメージを分析することにより、地域風土を考える。

2-1 意識調査の概要

本研究の意識調査の対象地域は岐阜県の31市郡である。このとき郡に関しては、町村全体の人口を町村数で割った値を平均人口とし、その値にもっとも近い人口の町村を一つ選び、当該の郡の代表地域とする。これを図-1に示す。また意識調査の項目は各地域の認知度、通過度、訪問度（4段階評価）、各地域の代表する固有名詞、および地域に対応する色彩（16色）、形容詞対（15対）を用いた地域のSD法（Semantic Differential）である。調査対象者は岐阜大学に勤務されている方々、および岐阜大学の学生45名（男性23名、女性22名）であり、調査用紙を配布、後日回収す

る方法とした。

2-2 色彩イメージの意識調査

まず各地域のイメージ色の集計結果を表-1に示す。全体的に、茶色、緑色が主要なイメージとして表されている。しかしながら高山市、郡上郡（大和町）

表-1 各地域の色彩イメージ集計結果

1	吉城郡（国府町）	緑 (24.4)	灰 (17.8)
2	高山市	茶 (20.0)	白 (15.6)
3	大野郡（宮村）	緑 (31.1)	茶 (13.3)
4	益田郡（金山町）	茶、黄、緑 (15.6)	
5	中津川市	青 (22.2)	茶、黄緑、水色 (11.1)
6	恵那市	緑 (22.2)	黄赤 (20.0)
7	恵那郡（山岡町）	緑 (17.8)	茶、黄緑 (13.3)
8	瑞浪市	水色 (42.2)	青 (13.3)
9	土岐市	茶 (26.7)	黄赤 (13.3)
10	土岐郡（笠原町）	茶 (28.9)	白 (20.0)
11	多治見市	黄赤 (17.8)	茶 (15.6)
12	可児郡（御嵩町）	緑 (17.8)	赤、茶、黄赤、黄緑 (11.1)
13	可児市	赤 (22.2)	ピンク (11.1)
14	美濃加茂市	黄緑 (20.0)	緑 (15.6)
15	加茂郡（坂祝町）	緑 (22.2)	茶 (15.6)
16	郡上郡（大和町）	白 (28.7)	緑 (13.3)
17	武儀郡（武儀町）	灰 (17.8)	黄赤、緑 (15.6)
18	美濃市	緑 (15.6)	黄赤、白 (13.3)
19	関市	灰 (24.4)	青緑 (13.3)
20	各務原市	灰 (17.8)	青 (13.3)
21	岐阜市	灰、水色 (13.3)	
22	山県郡（美山町）	緑 (37.8)	茶 (11.1)
23	本巣郡（糸貫町）	黄赤 (28.9)	緑 (15.6)
24	羽島郡（柳津町）	灰 (15.6)	黄緑、緑 (13.3)
25	羽島市	水色 (20.0)	青 (15.6)
26	海津郡（海津町）	青 (26.7)	水色 (13.3)
27	安八郡（安八町）	青 (17.8)	黄、黄緑 (13.3)
28	大垣市	青 (15.6)	茶、水色 (11.1)
29	養老郡（養老町）	緑 (33.3)	水色 (15.6)
30	不破郡（関ヶ原町）	白 (15.6)	茶、黄緑、緑 (11.1)
31	揖斐郡（谷汲村）	緑 (26.7)	赤 (13.3)

では白色のイメージが表れている。これは各地域の代表される固有名詞においてもスキー場の名前が回答されており、高山市や郡上郡（大野町）が雪国という印象からきていると解釈される。また羽島郡（柳津町）や海津郡（海津町）、安八郡（安八町）は青色のイメージが表れている。これらの地域は木曽川、揖斐川、長良川が流れており、ここから印象づけられたものと解釈される。また都市部に関しては、岐阜市や各務原市、関市で灰色という色彩イメージが強いという集計結果が得られた。

2-3 言語イメージ調査

次に各地域の形容詞によるイメージ評価の集計として平均プロフィール曲線を示す。代表的な地域には図-2に示す。ここで吉城郡（国府町）、大野郡（宮村）はほぼ同じ曲線が描かれている。これらには「地味な」、「自然的な」、「田舎的な」、などの代表する形容詞があらわされている。

一方多治見市、可児市、美濃加茂市などは特徴的な形容詞が少ない地域であり、印象の薄い地域であると言える。また各地域を全体的に見て「自然的な」、「田舎的な」といった形容詞が抽出されており色彩の場合と同様、山林のイメージが強い。

また平地に比べて山岳地に行くほど「暖かい」という形容詞のイメージが強く、精神的な意味でこころのやさしさが感じられる。一般的に、市部に比べて郡部では「庶民的な」、「閉鎖的な」という形容詞のイメージが強い。

また意識調査では当該地域の最も印象の強い固有名詞を質問している。ここで岐阜市、大垣市、高山市、関市では、多数の回答が得られた。一方、大野郡（宮村）、土岐郡（笠原町）、加茂郡（坂祝町）、武儀郡（武儀町）では回答数は少ない。

さらに各地域の認知度、通過度、訪問度についても質問し、固有名詞に関する質問とはほぼ同様の回答が得られた。認知度に関する質問で「その地域をよく、あ

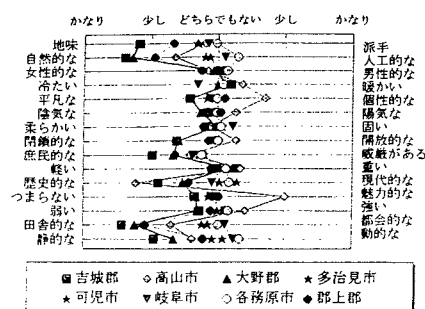


図-2 各地域の平均プロフィール曲線

るいはある程度知っている」と答えた人々は岐阜市で95.5%、大垣市で75.5%、高山市で93.3%、関市で55.6%であったが、大野郡（宮村）では6.7%、土岐郡（笠原町）で6.7%、加茂郡（坂祝町）で15.6%、武儀郡（武儀町）で17.8%であった。

また訪問度に関する質問で「その地域を何度も、あるいは2.3度訪問したことがある」と答えた人々は岐阜市では100%、大垣市で77.7%、高山市で68.9%、関市で66.7%であったが、大野郡（宮村）では4.4%、土岐郡（笠原町）で4.4%、加茂郡（坂祝町）で17.8%、武儀郡（武儀町）で11.1%であった。

3. おわりに

本研究では意識調査を用いて各地域の特徴を述べ、地域のイメージ評価について分析した。現時点では単純集計結果からイメージを用いて地域の意識の違いを述べたが、今後の課題として、以下の点が挙げられる。①地域イメージの背景となる風土特性から地域の深層心理について考える。②これらの分析結果から今後の地域のあり方について検討していく。またこれらの集計結果についても講演時に併せて報告する。

参考文献

- 1) 水島恵一・上杉喬：イメージ心理学1・イメージの基礎心理学、1983
- 2) 日本色彩学会：新編色彩科学ハンドブック、東京大学出版会、1991